



台船に載せて運ばれ、クレーンでつり上げられる「今津灯台」。
左奥は水門。11日午前8時54分、兵庫県西宮市、筋野健太撮影

国内最古「木造灯台」お引っ越し 兵庫 津波対策で

南海トラフ巨大地震を想定した津波などの対策工事で、現役としての国内最古とされる木造灯台「今津灯台」(兵庫県西宮市)が1日、対岸に移設された。台船に載せて運ぶ灯台の「お引っ越し」を関係者や市民らが見守った。

灯台の本体は銅板ぶきの屋根に杉材を使った灯籠形で、高さ約6メートル、重さ約3ト。午前7時半ごろ、大型クレーンでゆっくりつり上げ、30分ほどかけて慎重に台船に載せた。台船が対岸に着くと、クレーンでさらに30分ほどかけて移設場所近くの仮置き場に置いた。

移設は、県が進める津波・高潮対策の一環。新設された水門に灯台が隠れてしまうことに加え、近くに排水機場が新設される予定で、これまで灯台があった場所には増水した川の水を逃がす水路が建設される。

西宮市文化財課などによると、今津灯台は市内の酒造大手「大関」の創業家・長部家の5代目長兵衛が1810(文化7)年に建設。清酒を江戸へ運ぶ樽廻船の往来を見守ってきた。

現在の灯台は1858(安政5)年に6代目文次郎が再建したもので、現役の木造灯台としては国内最古とされる。近年はLEDの光で航路を知らせてきた。

村上春樹の小説「1973年のピンボール」に登場する「無人灯台」は今津灯台がモデルだと指摘するファンは多い。

大関の広報担当者は「酒どころの歴史を後世に伝える貴重な文化財。無事対岸に移せてほっ」と話した。

特注のLEDが世界的な半導体不足で納入が遅れる見込みで、移設後の再点灯は来年2月になる予定という。(真常法彦)

側)に交付され、指摘をし

前は記されておらず、利②総務省通知は「弁護士」「弁護士の依頼主を書面